

国語(C)
(問題)
2026年度

<2026 R08200015 (国語 (C))>

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。
5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ(設問の都合上、一部本文を改めている)。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

問一 傍線部1「私は、いわゆる「人形」を抱きしめて育った少女ではなかった」とあるが、「人形」と出会う以前の「私」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 貧しい家で懸命に暮らしを支える祖父に心配をかけまいと、欲しい玩具や「豪華なドレス」などを我慢する代わりに、心の中に作り上げた「秘密の野原」に引きこもることで、どうにか気持ちを紛らわせていた。

ロ 長く厳しかった戦争が終わり、新しい時代が始まるという希望に後押しされることで、身近なできごとの中に見出した驚きや喜びを「宝島の地図」として書きとめ、世界の人々に向けて表現しようと試みていた。

ハ 決して恵まれた生活ではなかったが、空襲の焼け跡で見つけた「ガラクタ」や虫たちとの遊びから想像力をふくらませることで、おぼろげながら現実とは異なる「もう一つの世界」の存在を感じ始めていた。

ニ 時に子どもらしい無邪気な暴力を行使しつつも、「戦後の焼け跡」や自然を見つめる中で出会った生の痕跡や新たな命の息吹きに励まされることで、家族を失った悲しみから力強く立ち上がりとしていた。

ホ 死の世界に旅立った家族や友人たちとせめて心の中でつながっていたと願い、自然の不思議な現象や「カエル」や「みの虫」たちとの戯れを通じて「まだ見ぬ世界」への入口を見つけ出そうとしていた。

問二 空欄 A にあてはまる語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 足のすくむ

ロ 膝を屈する

ハ 身につまされる

ニ 後ろ髪をひかれる

ホ 骨抜きにされる

問三 傍線部2「どうも居こちの悪い思いをぬぐいきれないでいた」とあるが、なぜか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 廃物などを使って作りあげたものを、他の芸術家の「作品」と同じ呼び方で表現することがためらわれたから。

ロ かりに人間の姿や形をしていなくても、はじめから自分の「作品」は人形と呼ぶべきだと考えていたから。

ハ 自分の心の赴くままに作った奇妙な「作品」を、どのように名付ければよいのか見当もつかなかったから。

ニ ガラクタで作った「作品」たちに、自分の記憶の中にある「人形」のイメージとのつながりを感じていなかったから。

ホ 子供時代の他愛のない遊びの延長線上で作ったものを「作品」として評価されることが気恥ずかしかったから。

問四 傍線部3「魂の入った人形は、人形の国に属するもはや生き物である」とあるが、筆者にとって「魂の入った人形」とはどのようなものだと考えられるか。本文中の表現を根拠としながら、あなたの考えを記述解答欄に一八〇字以内で記せ（句読点等も一字に数える）。

(二)

次のA～Cの文章は、歴史物語『今鏡』から平安時代後期の貴族であり風流人で有名だった源有仁（本文中では、花園の左大臣、大将殿、大臣殿、大臣などと表記）にかかわる記述を抜き出したものである。抜き出すにあたっては、人物名を注記した部分に（ ）を加えて読解の助けとした。これを読んで、あとの問いに答えよ。

A 三の宮（輔仁）の御子は、中宮大夫（師忠）の大納言の御娘の腹に、花園の左大臣（有仁）とておはせしこそ、光源氏などもかかるとこそ申さまほしく覚え給ひ^a。まだ幼くおはせし程は、若宮と申ししに、御能も御みめも、しかるべき事と見えて、人にも優れ給ひて、常にひきもの、ふきものなどせさせ給ひ、また詩作り歌など詠ませ給ひけるに、庭の桜盛りなりける頃、濃き紫の御指貫に、直衣姿いとをかしげにて、我も詠ませ給ひ、人にも詠ませさせ給ふとて、

① 惜しと思ふ花のあるじをおきながら我がもの顔に散らす風かな

と詠み給へりければ、父の宮見給ひて、「^dまろをおきてあるじとは、若宮は悪しく詠み給ふか」などあいし申し給ひけるとぞ人の語り侍りし。

B 鳥羽院位の御時に、大将殿（有仁）の菊を掘りに遣りて、奉り給ひけるに、薄様に書きたる文の、結びつけて見なければ、帝御覧じつけて、「かれは何ぞ。取りて参れ」と藏人に仰せられけるに、大臣殿（有仁）のふと心得て色も変りて、うつぶし目になり給へりける程に、帝広げて御覧じければ、

② 九重に移ろひぬとも菊の花もとのまがきを忘れざらなむ

とぞありける。后（待賢門院）の御姉におはすれば、時々参り通ひ給ふにつけつつ、忍びて聞え給ふ事などもおはしけるなるべし。

C この大臣（有仁）の、御子おはせぬぞち惜しけれど、却りては、哀れなる方もありて、なごり多く侍りて、我ものたまはせけるは、「いとしもなき子などのあらむは、いと本意なかるべし。村上の帝の裔、中務宮（兼明）の孫などいふ人々見るに、させる事なき人どもこそ多く見ゆれ。我が子などありともかひなかるべし」などぞありける。

（注）三の宮（輔仁）… 輔仁親王。第七一代後三条天皇の第三皇子。

中宮大夫（師忠）… 源師忠。

鳥羽院… 第七四代鳥羽天皇。

后（待賢門院）… 藤原璋子。鳥羽天皇皇后。姉が源有仁の北の方（妻）だった。

村上の帝… 第六二代村上天皇。

中務宮（兼明）… 兼明親王。第六〇代醍醐天皇の皇子。

問五 傍線部 a 「光源氏」について、次の文章の空欄 v ~ z にあてはまることばとして最も適切なものを、あと
の選択肢の中から一つずつ選び、それぞれ解答欄にマークせよ。

光源氏は長編物語である『源氏物語』の主人公とされる登場人物である。『源氏物語』は全部で五十四帖が現在に伝わっている。物語を大きく推進するのが、光源氏と **v** との禁忌の恋であり、これは帖が現在に伝わっている。物語を大きく推進するのが、光源氏と **v** との禁忌の恋であり、これはは京から **x** に移り、宗教的な雰囲気の下、男君である **y** と句宮が、三姉妹の女君である **z** と浮舟との間で繰り広げる複雑な恋愛模様が描かれている。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------------|---|-----------|---|-------|---|-------|
| v | イ | 女三宮 | □ | 紫の上 | ハ | 藤壺 | ニ | 明石の君 | ホ | 六条御息所 |
| w | イ | うつほ物語 | □ | 大和物語 | ハ | 古事記 | ニ | 今昔物語集 | ホ | 伊勢物語 |
| x | イ | 石山 | □ | 須磨 | ハ | 比叡山 | ニ | 宇治 | ホ | 明石 |
| y | イ | 冷泉帝 | □ | 薫 | ハ | 惟光 | ニ | 桐壺帝 | ホ | 柏木 |
| z | イ | 夕顔と玉鬘 | □ | 空蝉と軒端萩 | ハ | 磐長姫と木花咲耶姫 | | | | |
| | ニ | 大君と中君 | ホ | 弘徽殿の女御と朧月夜 | | | | | | |

問六 空欄 b には助動詞「き」が入る。文法的に適切な形に活用して、記述解答欄に記せ。

問七 傍線部 c 「ふきもの」と考えられる最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 朗詠 **□** 箏の琴 **ハ** 琵琶 **ニ** 鞆鼓 **ホ** 箏篋

問八 ①の和歌「惜しと思ふ花のあるじをおきながら我がもの顔に散らす風かな」に対して、父宮が傍線部 d 「まろをおきてあるじとは、若宮は悪しく詠み給ふか」と言った理由を記述解答欄に七〇字以内で記せ（句読点等も一字に数える）。

問九 ②の和歌「九重に移るひぬとも菊の花もとのまがきを忘れざらなむ」で、詠み手が伝えたかったのは、どのようなことと考えられるか。伝えたかった内容を記述解答欄に五〇字以内で記せ（句読点等も一字に数える）。

問十 本文 C の内容で、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 源有仁は男の子がいないことに対して、世間から評価されていない子孫だったら残さないほうが良いと考えていた。

ロ 源有仁は男の子がいないことが不本意で、子だくさんの先人をうらやましく思っていた。

ハ 源有仁は男の子がいないことに対して、子供の将来に神経を遣わず、心配の種がなくて良いと思っていた。

ニ 源有仁は男の子がいないことに対して、自分の老後の面倒を見てくれない子孫なら、いないも同然だと考えていた。

ホ 源有仁は男の子がいないことを残念に思い、高貴な血筋が自分の代で途絶えることがないように願っていた。

次の文は福沢諭吉の「德育如何」と題する文の一節である。これを読んで、あとの問いに答えよ。なお、設問の都合上、原文の表記を一部改めた箇所がある。

我日本の開国に次で政府の革命以来、全国人民の気風は開進の一方に赴き、其進行の勢力は之を留めて駐む可らず。即ち公議輿論の一変したるものなれば、此際に當て徳教の働も固より消滅するに非ずと雖ども、自から輿論に適するが為に、大に其装を改めざるを得ざるの時節なり。例へば在昔は、君臣の團結、國中三百所に相分れたる者が、今は一団の君臣と為りたれば、忠義の風も少しく趣を変じて、古風の忠は今日に適せず。在昔は三百藩外に国あるを知らずして、唯藩と藩との間に藩権を争ひし者も、今日は全国恰も一大藩の姿と為りて、在昔、藩権の精神は、面目を改めて国権論に変ぜざるを得ず。在昔は、社会の秩序、都て相依るの風にして、君臣、父子、夫婦、長幼、相依り相依られ、互に相敬愛し相敬愛せられ、両者相対して然る後に教を立てたることなれども、今日自主独立の教に於ては、先づ我一身を独立せしめ、我一身を重んじて、自から其身を金玉視し、以て他の關係を維持して人事の秩序を保つ可し。

2 新に沐する者は必ず冠を弾き、新に浴する者は必ず衣を振ふとは、身を重んずるの謂なり。我身、金玉なるが故に、苟も瑕瑾を生ず可らず、汚穢に近接す可らず。此金玉の身を以て、此醜行は犯す可らず。此卑屈には沈む可らず。花柳の美、愛す可し、糟糠の老大、厭ふに堪へたりと雖ども、糟糠の妻を堂より下だすは、我金玉の身に不似合なり。長兄愚にして、我れ富貴なりと雖ども、弟にして兄を凌辱するは、我金玉の身に能くす可らず。爰に節を屈して権勢に走れば名利を得べしと雖ども、屈節以て金玉の身を汚す可らず。与ふるに天下の富を以てするも、授るに将相の位を以てするも、我金玉、一点の瑕瑾に易ふ可らず。一心此に至れば、天下も小なり、王公も賤し。身外無一物、唯我金玉の一身あるのみ。一身既に独立すれば、眼を転じて他人の独立を勧め、遂に同国人と共に一国の独立を謀るも自然の順序なれば、自主独立の一義、以て君に仕ふ可し、以て父母に事ふ可し、以て夫婦の倫を全くし、以て長幼の序を保ち、以て朋友の信を固くし、人生居家の細目より天下の大計に至るまで、一切の秩序を包羅して洩らすものある可らず。

故に我輩に於ては、今世の教育論者が古来の典經を德育の用に供せんとするを咎るには非ざれども、其經書の働を自然に任して正に今の公議輿論に適せしめ、その働の達す可き部分にのみ働を違くせしめんと欲する者なり。即ち今日の徳教は、輿論に従て自主独立の旨に變ず可き時節なれば、周公孔子の教も、亦自主独立論の中に包羅して之を利用せんと欲するのみ。

今の世態、果して不遜輕躁に堪へざる歟、自主独立の精神に乏しきが故なり。論者其人の徳義薄くして、其言論演説、以て人を感動せしむるに足らざる歟、夫子自から自主独立の旨を知らざるの罪なり。天下の風潮は、夙に開進の一方に向て、自主独立の輿論は之を動かす可らず。既に其動かす可らざるを知らば、之に従ふこそ智者の策なれ。蓋し学校4の教育をして順に帰せしむること、流に従て水を治むるが如くせんとは是の謂なり。

(福沢諭吉「德育如何」による)

注 ・沐：髪を洗うこと。 ・瑕瑾：きず、汚点。 ・花柳：色町の女性。

・糟糠：貧しい時代に苦勞をともした妻のこと。

問十一 二重傍線部 a・b・c の漢字の読みを、記述解答欄に平仮名で記せ。

問十二 傍線1「君臣の団結、国中三百所に相分れたる者が、今は一団の君臣と為り」の説明として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ かつては身分や幾百もの因襲によって、君臣関係も同様に幾百も存在していたが、明治維新後、国が統一されて、政府と人民という一つの上下関係に統括されるようになったということ。
- ロ 幕藩体制であった江戸時代は全国が約三百の藩に分割され、君臣関係と言えば、藩主とその家臣を指し、約三百の君臣関係が存在したが、明治時代になると天皇と人民の関係一つだけになったということ。
- ハ 江戸時代の武士は朱子学を奉じ、君臣関係をもっとも重んじ、各藩が建てた計三百の藩校がその倫理道徳を授ける空間だったが、明治維新後は新しい学制が敷かれた結果、国家と人民が一つの団体のようになり統合されたということ。

二 明治時代は廃藩置県によって、約三百の藩が再編成され、江戸時代と同じく地方分権の体制であっても、各県が独立性をもち、県知事と県民があたかも一つの団体の中で運命をともにするかのようになり固く結ばれるようになったということ。

ホ かつて日本国内には要所所に関所が設けられ、それが各藩を隔てる分断を生み、その数三百も存在したが、明治維新後それらは取り払われ、国も統一されたため、政府と人民とが、かつての君臣関係のようになり固く結ばれるようになったということ。

問十三 傍線2「新に沐する者は必ず冠を弾き、新に浴する者は必ず衣を振ふ」は、屈原の「漁父の辞」の一節である。この一節の後に、次の一文がある。

安能^{アンノウ}以^ニ皓皓^{テシテ}之^{カウ}白^{シロキ}、而^{カウ}蒙^{カウシツヤ}世俗^ニ之^{カウ}塵埃^ヲ乎。

この一文の現代語訳を記述解答欄に記せ。なお、「皓皓」とは、清らかなの意味である。

問十四 傍線3「与ふるに天下の富を以てするも、授るに将相の位を以てするも、我金玉、一点の瑕瑾に易ふ可らず」の解釈として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 与えるなら天下の富、授けるのなら最高位の官職、そうでなければ他人は容易くは動かない、それがわずかばかりの欠点を覆い隠す重要な決め手になる。
- ロ たとえ天下一の大金や最高の地位を前にしても、それらと至上の宝ともいべき己とを両天秤にかけたなら、常に己の価値こそが重いと答えられる強い信念を養わなければならない。
- ハ かりに天下一の財や最高の地位をくれると言われても、その代償としてわずかにでも人生の汚点になるならば、最上の宝物とも言うべき我が身を汚して利に走るような真似をしてはならない。
- 二 たとえ、巨万の富と最高級の地位をくれるという条件であっても、その裏には大きな落とし穴が潜んでいるのが世の常であるので、細心の注意を払ってどんな小さな欠点でも探し出さなければならぬ。
- ホ 天下随一の富や総理大臣や元帥の地位をもたらすもの、それが金玉たる我が身なのだから、大局を見失い、大きな成功をつかみ損ねるようなことになったとしても、細部をゆるがせにせず、とことん己の正義を貫くべきだ。

問十五 傍線4「学校の教育をして順に帰せしむること、流に従て水を治むるが如くせん」を白文に改めた時、最も適切な語順のものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 学校令帰教育於順、如流従水治。
- ロ 令帰於順学校教育、如流従治水。
- ハ 学校教育令帰於順、如従流治水。
- ニ 学校令教育帰於順、従流如治水。
- ホ 令学校教育帰於順、如従流治水。

問十六 本文の内容に合致しないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 自主独立の精神を身につけた人民を育成できれば、伝統的な儒教的秩序をも含む道德を備えた人民を生むことは十分可能である。
- ロ 己の崇高なる価値に傷をつけることになるので、たとえ兄が愚か者でうだつが上がらず、弟である自分が金も名誉も持っていたとしても、兄を愚弄するようなことがあつてはならない。
- ハ 今の時代、政治家や有識者の言論が多くの人々の感動を呼ばないのは、彼らの徳が少ないからなのではなく、彼らが信奉する孔子や孟子がそもそも自主独立ということを知らなかったからなのだ。
- ニ 明治維新以前において、社会道德は他者との相互関係を第一にして成り立っていたが、これからは、西洋の文明に基盤を置く以上、自主独立精神の育成を第一にして人民を教育していかなばならない。
- ホ 今の教育を批判する者たちは、かつての儒学を中心に打ち立てられた伝統的な道德観に回帰することを主張するが、新しい体制に改まった以上は、前進あるのみであり、伝統的道德観は排除するべきである。

〔以下 余白〕

国 語 (C)

(記述解答用紙)

注 意

1. 受験番号（算用数字）・氏名は指示に従ってただちに所定欄に記入し、それ以外に記入してはならない。
2. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
3. 解答はHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで書くこと。
4. 試験終了時にはこの解答用紙を裏返して机の上に置き、指示を待つこと。

〈2026 R 08200015 (国語(C))〉

受験 番 号	万	千	百	十	一
氏 名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

〈2026 R 08200015 (国語(C))〉

受験 番 号	万	千	百	十	一
氏 名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。



問十三

(三)
問十一 a

より

b

も

c

ふ

問九

50

問八

70

(二)
問六

(一)
問四

180

解答欄

採点欄

採点欄